

+++++  
「植物と人々の博物館メルマガ」 第8号 2015年11月17日発行  
+++++

冷たい雨が降り、山村では紅葉も散り始め、秋も深くなりました。冬に向かうほどに、冬野菜は元気にしています。掘りたての、新ゴボウのかき揚げは人気ですし、サトイモの煮っ転がしもおいしいです。長崎の岩崎さんに頂いた源助ダイコンもよく発芽し、高知の川上さんに頂いたアザミタカナ（熊本）は小菅で生育が良かったので、今度は秋子さんが栽培して道の駅に置くようです。

会員および配信を希望される方に公開活動ニュースなどをお送りします。ご関心のあるご友人に転送などでご紹介いただき、顔のない薄情な「マスコミ」ではなく、顔見知り信頼の「口コミ」で伝達していただけるとうれしいです。連絡先は下記メールアドレスです。

## 1. 日本村塾 *Nihonmura* College for Environmental Studies

伝統知を学び合うことで、「素のままの美しい暮らし」(*Sobibo*) を勧める。

参加希望者は木俣にメールください。 [kibi20kijin@yahoo.co.jp](mailto:kibi20kijin@yahoo.co.jp)

### 1) 民族植物学ゼミ第2回

日時:12月19日(土) 13時から17時まで。参加費:300円(会場代など)。

場所:東小金井マロンホール会議室、申込者に地図(駅近く)をお送りします。

読書会:推薦図書:『シャーマンの弟子になった民族植物学者の話』、マーク・プロトキン著、築地書館。上2200円、下1800円。上巻は木俣、下巻は松浦さんが担当します。現在5名の申込み。

### 2) 扶桑くにゼミ第3回

日時:2016年2月予定、読書会:推薦図書:『銃・病原菌・鉄』、上1900円、下1900円、ジャッレド・ダイヤモンド著、草思社、ほか検討中。ご意見があれば、お知らせください。

## 2. 雑穀見本園の生育状況など

刈取り前の見本園の様子(写真1)。中川さんのご厚意で、日本で栽培されている雑穀6種とアマランサスを栽培した。キヌアも含めて、来年用の種子が必要な方には少量なら差し上げられます。お知らせください。



写真1. 雑穀栽培見本園

3. 第9号雑穀特集英文は編集中です。第10号は2016年3月頃締切で原稿を募集します。第36回環境学習セミナーの概要は収録します。送付先住所を添えて、eメールなどで木俣までお申し込みください。バックナンバーは下記のHP 植物と人々の博物館（ミュージアムグッズ）で読めます。

#### 報告：

1) 自給農耕ゼミ第3回 日時：11月8日（日）、場所：神奈川県相模原市、藤野倶楽部、結びの家。内容：収穫した雑穀の料理教室では餃子やスープなどの調理実習をし、その後、会食しながら雑穀街道の進捗状況について話し合いました。延べ20名余りの参加でした。



写真2. 藤野倶楽部／結びの家でのゼミ

#### 2) 森とむらの図書室の蔵書

藤野倶楽部の安心農園に藤野分室を置き、原沢文庫を順次移動し始めました。藤野倶楽部安心農園、トランジション・タウン藤野／お百姓クラブほかに、日本村塾／自給農耕ゼミに合わせて活用していただきます。

#### 3) 展示「雑穀街道」は、内容を少し更新して、藤野でも継続しています

日時：10月31日～

場所：相模原市緑区牧野 藤野倶楽部百笑の台所に隣接した結びの家。

内容：雑穀をモチーフにしたテキスタイル、種子とその解説、雑穀街道の現代史「古守豊甫医師らによる長寿村桐原調査から、藤野での雑穀調査」など。



写真3. 雑穀街道の展示の一部

#### 4) 第36回環境学習セミナー

##### 持続可能な地域社会の再検討～『明日の小菅村を探る』～

過疎高齢化や限界集落など悲観的な用語が世間を飛び交う中で、日本の山村は多くの課題を抱えながらも、素のままの美しい暮らしを、今に継承してきました。現在、人口700人余の小菅村でも、源流の郷やエコミュージアム日本村など、以前から多く村づくりの取り組みがなされてきています。源流の郷（日本小菅村発）、エコミュージアム（フランス発）、トランジション・タウン（イギリス発）、美しい村連合（フランス発）の4つの代表的事例からその活動経験を学び、地方消滅論を再検討し、これを克服する方策を探りました。

参加者は延べ40名余り、村人が多く参加して下さってとても良かったです。4つの事例の講演者の共通する熱意ある意見は、「地域は自立を旨として、自発性、内発性に依拠し、行政補助に依存しすぎないようにする。交流のあり方は「相互依存的」、「半開き」が良く、特色ある個性による多様性、持続性を求める」ことと理解しました。4事例はそれぞれに独自の特色があり、国際的にも相互に学び合いながら、連携を図るのが良いと思いました。

日時：2015年11月14日(土)～15日(日)

場所：山梨県小菅村 役場および中央公民館

主催：NPO 法人自然文化誌研究会、エコミュージアム日本村／ミュージゼス研究会

共催：NPO 法人 ECOPLUS、協力：東京学芸大学環境教育研究センター、後援：小菅村、トランジション・ジャパン



写真 4. 総合討論

.....

植物と人々の博物館は、山梨県小菅村で行っているエコミュージアム日本村（トランジション小菅）のコア博物館です。これはNPO自然文化誌研究会のボランティアな公民館活動プロジェクトで、小菅村と東京学芸大学の社会連携に協力しています。ご興味のある方が山村の素のままの美しい暮らし sobibo や伝統文化を村人から一緒に学び、継承するプロジェクトに参加して下さると、とてもうれしいです。

自然文化誌研究会が国内外の調査研究によって収集した民具、雑穀標本、図書、雑穀栽培見本園などを山梨県の山村小菅の暮らしと関係づけて展示、整理、解説しています。雑穀栽培講習会、日本村塾 3 ゼミ（自給農耕、民族植物学、扶桑こく）、環境学習セミナーなども開催しています。雑穀街道（さあ山村）を、都市から農山村に暮らし向きを求め、鎌倉街道（いざ鎌倉）と反対方向に創ることを提案しています。

#### 現在の日常活動

1. 雑穀栽培見本園の管理
2. 民具展示の整理
3. 雑穀標本の整理
4. 農・林学、植物、環境、教育、人類学、およびインド・タイなど海外関係図書の整理、番号付をしています。

\*\*\*\*\*

館長：木下善晴（小菅村在住）

自然文化誌研究会（東京都日野市）：代表 中込卓男、副代表 中込貴芳、小川泰彦

ミュージゼス研究会（小菅村）：代表 青柳諭、副代表 亀井雄次

事務局：黒澤友彦（小菅村在住） [npo-inch@wine.plala.or.jp](mailto:npo-inch@wine.plala.or.jp)

研究員塾生：木俣美樹男（東京）、西村俊（石川）、藤盛礼恵（千葉）ほか

連絡先：木俣美樹男 [kibi20kijin@yahoo.co.jp](mailto:kibi20kijin@yahoo.co.jp)

ホームページ：植物と人々の博物館 <http://www.ppmusee.org/>

自然文化誌研究会 <http://www2.plala.or.jp/npo-inch/>

生き物の文明への黙示録 <http://www.millettimplic.net/>

\*\*\*\*\*